

9. 第17回 ソフトボール競技実施要項

(2009.5.22 訂正)

1. 競技種目

男子ソフトボールとする。

2. 競技規定

大会開催年度の(財)日本ソフトボール協会オフィシャル・ルール及び本大会申合せ事項による。

3. 出場資格

- ①ブロックごとの出場枠を下記のとおりにする。北海道・東北1、関東2、北信越1、東海1、近畿1、中・四国3、九州2、開催地1、計 12 チーム以内になるものとする。但し、ブロック予選大会参加チーム数により、枠を変更できる。なお、開催地チームが予選大会において優勝又は準優勝の場合は、地元開催チームの権利を失うものとする。
- ②但し、優勝・準優勝チームが本大会に出場できない場合は、当該ブロックの協議により、代替チームが出場できるが、代替チームに関する責任は代替チームを選出した当該ブロックが全て負う。
- ③出場するチームは1チームで、当該ブロック内の他のチームから選手を2名以内で補強することができる。当該ブロック内で人数が満たされない場合は、隣接ブロックから加えても良い。ただし、この場合、隣接ブロック体育部長の許可を要する。
- ④上記の規定にかかわらず、出場できるのは1都道府県につき2チームを原則とする。

4. チームの編成

- ①1チームの編成は、監督を含む選手20名以内とする。
- ②コーチまたはマネージャー、スコアラーが選手として出場することはできるが、選手として出場する場合は、20名の範囲内で登録しなければならない。
- ③監督の背番号は30番、主将の背番号は10番とする。

5. 試合球

検定ゴム3号球(ケンコウ)とする。

6. 競技方法

- ①対戦方法はトーナメント方式とする。
- ②試合は、7イニング制と時間制を併用し、どちらか先に達した時点で試合終了とする。7回を終了して同点の場合は8回よりタイブレーカーを適用する。
 - ア. 80分を越えて新しいイニングに入らないものとする。
 - イ. 7イニングまで達した場合は、規定時間に達していなくても終了とする。
 - ウ. 5回以後7点差の場合はコールドゲームとする。但し、決勝戦を除く。
 - エ. 決勝戦は7回とする。同点の場合は8回よりタイブレーカーを適用する。時間制限なし。
 - オ. タイブレーカーは継続打順とし、前回の最終打者を2塁走者とし、無死2塁の状態から1イニングを行い、得点の多いチームを勝ちとする。なお、タイブレーカーを実施しても勝敗が決しない場合、抽選により勝敗を決定する。(決勝

戦を除く)

また、時間切れが生じたとき同点の場合は次回よりタイブレーカーを適用する。

7. 表彰

- ①決勝戦終了後、閉会式において行う。
- ②個人賞のうち選考最優秀打者賞は、ベスト3チームの全試合を選考基準対象とし、指定打席(12打席)を設けて、最高打率によるものとする。

8. 組み合わせ

監督・主将等合同会議において、大会の組合せ抽選を行う。

9. 競技用具

- ①バット、ヘルメット(JSA)の点検をし、規定以外のもの及び危険と思われる用具は、試合終了まで、競技場本部席で保管する。試合終了後、受け取りにくること。
- ②一チームの選手のユニフォームは同色、同衣装で統一された品位あるものであること。また、帽子は同一のものとする。靴は同色のものを使用しなければならない。
- ③背番号は監督 30 番・コーチ 31 番 32 番・主将 10 番・選手は1番から 99 番までとする。胸番号も同一とし胸に付けなければならない。
- ④攻撃中の打者、走者はヘルメットを着用しなければならない。
- ⑤守備中の捕手は、スロートガード付きマスク、ヘルメット、レガースを着用しなければならない。また、ボディプロテクターを着用しなければならない。
コーチボックスではヘルメットを着用しなければならない。
- ⑥準備投球の時、競技場内のいかなる場所で投球練習する時でも、捕球する者は必ずスロートガード付マスク・捕手用ヘルメットを着用しなければならない。
- ⑦金属製スパイク使用は認めない。また、危険行為をした場合は退場とする
- ⑧投手のジャンピンクスローが行われた場合は、これをボークとみなす。

10. 注意事項

(1) 競技開始まで

- ① 試合開始予定時刻の 30 分前、または前の試合 5 回終了時まで、試合会場に集合すること。遅れた場合は原則として棄権とみなす。
- ② 打順表は、試合開始予定時刻の 30 分前、または前の試合 5 回終了時まで、打順表(4枚1組複写)に必要事項を記入し、必ずふりがなをつけて球場本部に提出すること。相手のチーム打順表は審判・記録員の照合 確認のうえ審判員より受けとる。
- ③ 攻守順の決定は、打順表提出時、審判員立会いのもと「コイン」のトスによって決定する。「コイン」の裏表は先着(打順表持参)チームに優先権を与える。
- ④ 競技者席は組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。ベンチに入る人数は要項で定められた者以内とする。
- ⑤ ファールディング
 - (ア) 競技場に入ることを許されたメンバーで行うこと。
 - (イ) 後攻チームより 5 分間とし、審判員の指示に従うこと。
 - (ウ) 大会進行上、時間の短縮及び省略することもある

(2) 競技開始

- ①「集合準備」の指示で自己のベンチ前に一列横隊に立つ。
- ②「集合」の号令と同時に駆け足でホームプレートをはさんで整列する。

(3) 攻守交替、選手交替

- ①すべて駆け足で敏速に交替を行うこと。
- ②選手の交替は、監督が球審にすみやかにその旨、通告すること。
- ③再出場の時のみ、選手交替届出用紙を提出すること。

(4) 攻守交替のボール

- ①特に指示がない場合はピッチャープレートの上に置く。
- ②試合終了時は審判員に渡す。

11. 競技場

- ① ダブルベースを使用する。
- ② 外野フェンスを設営すること。

12. その他

- ①審判員の判定に基づく判定に対して抗議することは許されない。ルール上の疑義については、監督に限りこれを正すことができる。
- ②小雨でも決行するが、万一試合を中止、又は開始時刻を変更する場合は大会本部から各チームに連絡する。また、午前中雨天でも、天候の回復状況により試合を開始することもある。
- ③第1試合開始前に始球式を行う。
- ④実行委員会は大会参加申込締切後、参加チームが 12 チームに満たない場合、すぐ財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会事務局にその旨を伝えること。
- ⑤監督・主将会議はユニフォーム着用を義務とする。

13. 本要項の改正

- ・一部改正 2004年2月22日 第6回全国委員会
- ・一部改正 2005年2月19日 第8回全国委員会
- ・一部改正 2008年2月3日 第3回本委員会
- ・一部改正 2009年2月8日 第3回本委員会